様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２２年　５月１７日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：2007　～2011
課題番号：19791707
研究課題名（和文）　NICU 収容児の発達を促進する介入方法の母子相互作用への効果

研究課題名（英文）　The effects of developmental care in the neonatal care unit to enhance the relationship between mother and their children.

研究代表者
吉田　真奈美（YOSHIDA　MANAMI）
札幌医科大学・保健医療学部・助教
研究者番号：90404756

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学
キーワード：新生児看護、母子関係、低出生体重児、新生児 ICU、小児の発達

１．研究計画の概要

本研究は、NICU 収容児の知覚と運動の発達を促すこととして行う「赤ちゃん体操」の実施を通して、児の状態と母親の心身の健康状態、母子相互作用の変化を検証することである。具体的には、

(1)「赤ちゃん体操」実施前後の児の反応を観察し、児の心身の健康状態と母子相互作用の評価のための指標を作成する。

(2)「赤ちゃん体操」を児の母親が実施するためのプログラムとマニュアルを母子相互作用促進の側面を含めて作成する。

(3)「赤ちゃん体操」を実施することによる母親への心理的身体的影響と母子相互作用への効果を検証する。

(4)全国の NICU 収容児に対する児の知覚と運動の発達を促進するためのケアの実態を明らかにする。　である。

２．研究の進捗状況

「赤ちゃん体操」が実施されている NICU1 施設において、13 名の「赤ちゃん体操」の対象児と 11 名の母親に看護ケアを実施した。児に対する看護ケアにはインファントマッサージインストラクターとして体操のタイミングやタッチの方法について具体的な説明を盛り込んだ。母親に対しては「赤ちゃん体操」の目的や退院後に赤ちゃん体操を継続するために必要な具体的な留意点や工夫点について記載した家族に手渡すパンフレットの作成に着手し理学療法士の協力を得て完成した。看護ケアの際には本研究で作成したパンフレットを母子の状況に合わせ修正を加え使用している。パンフレットの使用を通して「赤ちゃん体操」が成長発達の促進とともに母子相互作用の機会でもあることを理学療法士と共有しながら母子のケアにかかわることができるようになった。看護ケアは児の入院中から外来通院時に継続中である。また、NICU 収容児の母親へのインタビューを実施し内容の分析を行った。分析結果より「赤ちゃん体操」を実施している母親が児の成長発達と「赤ちゃん体操」を母親が主体となって行うことに不安や焦りを抱いている

ことが明らかとなった。母親が児とのふれあいを楽しみながら自信を持って「赤ちゃん体操」に取り組めるよう看護職者が児の反応を丁寧に伝えたり、母親のできている点を褒めたりするといった積極的なケアの必要性があることが示唆された。ハイリスク母子の母子相互作用の促進を目的としたインファントマッサージ教室を開催した。開催前後に実施したアンケートを分析した。分析の結果よりインファントマッサージ実習を受けることにより母親は今現在の子どものニーズをより大事にするようになるといった効果があることが明らかとなった。さらには乳児を育児中の母親は疲労や心身の不調を抱えていることがわかった。今度は母親のリラクゼーションケアの実施など母親への心身両面でのケアを取り入れ、より母子相互作用が促進されるケアを検討し継続する予定である。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）「赤ちゃん体操」を児の母親が実施するためのプログラムとマニュアルを母子相互作用促進の側面を含めて作成することと、「赤ちゃん体操」を実施することによる母親への心理的身体的影響と母子相互作用への効果を検証することについては、母子へのケアを実施しながらインタビューや質問紙によりデータを収集し分析を行うことができた。その結果を学会発表することができている。「赤ちゃん体操」実施前後の児の反応を観察し、児の心身の健康状態と母子相互作用の評価のための指標を作成することについては、現在、理学療法士と協力して児の状況を画像に残し、今後分析を進める予定となっている。４つの研究目的のうち、２つについて達成し、残り２つについて着手し始めているのでおおむね順調と考える。

４．今後の研究の推進方策

研究の結果、NICU 収容児の母親は児とのふれあいを楽しみながら成長発達を促進するためのケアを行う心境には至っていないことが多いことが明らかになった。本研究では、母親と家族のためにパンフレットを作成しているがこのパンフレットのさらなる改訂に取り組み、母親の精神面のサポートと母子相互作用へより効果のあるものを作成したいと考えている。同時に母親の精神面の客観的評価方法について検討を進める予定である。引き続き、協力施設の理学療法士と連携を取りながら進める予定である。また、全国の NICU の現状については 3 施設のスタッフへのインタビューを行う予定であり、現在、施設選定中である。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計 4 件）

①<u>吉田真奈美</u>、発達促進の運動療法を受けている極低出生体重児の母親の体験と思いの分析、第 29 回日本看護科学学会学術集会、平成 21 年 11 月 27 日、千葉県千葉市

②<u>吉田真奈美</u>、働く母親の朝食摂取状況が乳幼児と母親の食生活と健康状態に与える影響、第 50 回日本母性衛生学会学術集会、平成 21 年 9 月 28 日、神奈川県横浜市

③<u>吉田真奈美</u>、インファントマッサージ実習が上の子どもをもつ母親へ及ぼす変化について、第 39 回北海道母性衛生学会学術集会、平成 21 年 9 月 6 日、北海道札幌市

④<u>吉田真奈美</u>、乳幼児の子どもと母親の食生活と健康に関する調査－出生時体重による比較－、第 49 回日本母性衛生学会学術集会、平成 20 年 11 月 7 日、千葉県浦安市